

私たちの考え方

- 1、本会は、国際紛争の解決は戦争によらず、すべて平和的手段によることを主張する。
- 2、本会は、わが国の憲法第9条の精神を遵守し、世界の平和を希求する。
- 3、本会は、市民による、市民のための、市民の国家体制に逆行するあらゆる思想、言動、政策に反対する。

「不戦兵士の会」 創立主旨

戦後はや40年、古希も近いこの頃になって、ようやくかつての悲惨だった戦争を思い、最近の戦前復帰の風潮に真の恐ろしさを感じるようになりました。まことに蛍光灯の如き運い反応にやささか気恥ずかしい気持ちですが、さりとてこのまま何もせず、時の流れに消え果てしてしまうのも悔しく、何か大事なことを忘れていたような気が致します。

終戦から今日まで、喜びも、苦しみも楽しみも、いろいろと経験し、人々にはそれぞれの考え方があることやお互いに譲り合って生きていくことの大切さ等も学びましたが、私どもはただ一つ悲惨な戦争を体験し、からくも生きながらえ、極限に追い詰められた人間がどのような行動をしたか、生き地獄絵図を見てきた数少ない生き証人として共通の地盤にたっていると思います。

それゆえに、私どもの出来ることといえは、かつての戦争はいかにして起こったか、戦争というものが、いかに非人間的なものであったか、そして国家の指導者たちのエゴから終戦の決断が遅れて、その結果、いかに多くの国民が犠牲に供されたか等々について、歴史の生き証人として後世に伝えることではないでしょうか。そしてそのことが間接的に軍縮平和への道に通ずるのであれば、このさい重い腰を上げて機会を掴んで世に訴える努力を致したいと存じ、この度「不戦兵士の会」を結成することに致しました。

戦前復帰を声高に叫ぶ一握りの人々に対し、もの言わぬ多数の良識ある人々が手を携えて平和な民主社会の確立に立ちあがることは、いま極めて大切なことと存じます。立ちあがるときに立ちあがらなければ、悔いを千歳に残すでしょう。皆様のご協力、ご指導、ご鞭撻のもとに当会をより強固なものに致したいと存じます。

1988年1月

不戦兵士の会

不戦兵士・市民の会は2008年、創立20年を迎えました

# 戦場体験をどう受け継ぐのか



## 「語り部」と研究者の対話

戦後六十三年、アジア太平洋戦争の軍歴をもつ元兵士は、敗戦時に初年兵で現在八十三歳。徴兵制ではなから志願で入隊した最年少者も七十八歳。貴重な戦場体験者・老元兵士が、まもなく日本の社会から姿を消そうとしています。

「生き地獄絵図」をこの目で見てきた数少ない生き証人として、「不戦兵士・市民の会」の戦場体験兵士は、この二十年間、「戦争だけは二度と許してはならない」という思いと、「国際紛争は戦争ではなく平和的手段で」「憲法九条の精神を遵守し世界の平和を希求する」という信念で、戦争責任意識と加害を中心に貴重な「語り部」活動を続けてきました。

しかし日本は、戦争責任・戦後補償も未決済のまま、アメリカの傭兵として、ふたたび戦争国家への道、それも世界のあらゆる地域に軍事介入する恒常的な派兵国家への道を進んでいます。

あることか、かつての明白な侵略戦争を「自存自衛のため」「アジア諸民族の植民地からの解放」のための戦争と、歴史を歪曲し、憲法を改悪しようとする策動が強められています。

そうした歴史の分岐点において、日中戦争が破滅の